

## 開校10周年記念式典第2部パネルディスカッション シルバーカレッジの目指したもの、目指すもの

このページはカレッジ情報編集部より情報提供を受けて制作しました。

### パネリスト

神戸市シルバーカレッジ学長

関西学院大学教授

コミュニティサポートセンター神戸理事長

グループ“わ”元代表、会員

グループ“わ”会員

### コーディネーター

関西大学教授

今井 鎮雄

浅野 仁

中村 順子

中島 洋吉

内海 尚枝

松原 一郎



松原コーディネーター(以下CO)  
討論を次の3つくらいに絞って進めたいと思います。

(1)生涯学習はどうなっているか。その評価はどうか。

(2)社会参加、貢献に特色があるか。特色を出すためにどうしたらいいか。

(3)これからの10年、20年にどんな展開ができるか。更なる充実を図るにはどうしたらいいか。

先ず1期生の内海さんに伺います。

内海さん：カレッジができるというので応募しましたら入学試験があり、これにはびっくりしました。何とか通り、平成5年9月に

入学しました(当時は9月でした)。学校は何もかもが新鮮で毎日が楽しゅうございました。平成7年1月みなさんご承知の大震災があり学校は休校となりました。被災された方々をお見舞いしたり、勇気付けたりしているうちに自然とボランティア活動が身についたような気がします。

CO：中島さん如何でしょう？

中島さん：自由な雰囲気の中で体系的なカリキュラムを学ぶことは素晴らしい事だと思います。生涯学習については、私は65歳までは期入門期で新しいことを学び65歳からは期、学んだことを如何に社会に還元するかの時だと思っています。

CO：浅野先生如何ですか？

浅野さん：放送大学の資料作りのため取材させていただいた時、ベトナム人の子供達への学習指導のボランティア活動に取り組んでおられる姿を拝見し、感激しました。社会参加、社会還元のための人

材育成だけでよいのか疑問を感じるのですがね。

中島さん：“わ”の事情から言えばボランティアは無理してやるものではない。むしろ自分のためにやると考えたほうがいい。

内海さん：“人のためになれたらいい”とだけ考えてやってきました。

CO：NPOの先人である中村さん如何ですか？

中村さん：皆さん方の世代はサードエイジと呼ばれています。私は団塊



の世代に属しています。サードエイジは私たちのお手本になって頂きたい。過去10年を失われた10年というようですが、私はそうではないと考えています。この間にNPOは格段に増えました。全国で1万4000団体あります。それから私が期待することは学びを目的とするのではなくボランティアをするための手段として考えていただきたい。

CO：学びを目的としてもいいのではないのでしょうか。学びも楽しいですよ。

中村さん：松原コーディネーターも浅野先生も学者でいらっしゃるからそうおっしゃいますが、私達は実践が大事ですから学びは手段と考えるのです。

今井学長：社会が急速に変わっていきますので、その変化についていける



高齢者になるため、学ぶことも必要だと私は考えます。学ぶことによって次のゴールを見つけるということもあります。

CO：カレッジの更なる発展のためにどうすればいいのでしょうか？

中島さん：実践をしていくというのとつまずくことがある。その場合レベルの高い講座に入って学びなお

すといったシステムが考えられないだろうか。

高齢者学習の欠点として学んだだけで実践に生かせないことがある。創立以来10年経ったので、1・2期生の考え方と10期生とはかなり違っていると思われます。新しいカリキュラムにし、実践のためのきっかけを作ってあげることも必要でしょう。例えばワークショップ。

CO：カレッジのこれからに期待することは？

浅野さん：社会参加は重要なことですが、それだけでなく個人、夫婦、家族のレベル向上に繋げていき生活を楽しんでいけることが重要だと思います。その秘訣をSCで学ぶことができたと思います。

CO：学びを通じて自分を相対化できるといことですね。社会を相対化して見ることができるといことですね。

中村さん：私は3つのことを期待したいですね。1つは、NPOとカレッジを繋ぐネットワークがほしい。行事のあるときだけでなく日常的な活動の中で連携をしていく方がほしいです。2つは自主活動のワークショップを取り入れてほしい。3つ目は次の世代を見つけるための何か工夫がほしい。例えば社会参加をして頂いた方にポイントを差し上げ、ポイントをたくさん持っている方は優先的にカレッジに入学できるとか。私は「机」、「名刺」を用意し「仕事」をして頂く工夫をしています。

CO：内海さん如何ですか？

内海さん：当初ベトナムの子供達へのボランティアにはSCからは殆どありませんでしたが、今では十数人の方が参加されている。このような広がりがもっと増えることを期待しています。

CO：本日はありがとうございました。